

第1学年B組 英語科学習指導案

授業者 蓬 澤 守

1 単 元 PROGRAM 2 1-Bの生徒たち

(Sunshine English Course 1)

2 単元について

(1) 題材について

本課は、中学1年生である真央がクラスメイトであるダニエル、エミリーへ真央の趣味について話をする場面から始まる。その後、ダニエルがエミリーへ好きなスポーツに関する質問を投げかける場面へと発展する。

他者との出会いにおいて、自己開示はコミュニケーションを円滑に行う第一歩であり、必要不可欠である。そして互いに関する情報を交換することで、どのような人物かわからない初対面の相手に対する不安を取り除き、コミュニケーションをより円滑に進めることができるようになる。どのような情報を伝達していくことが望ましいか、またどのような質問・応答がよりよいコミュニケーションへとつながるかを思考させ、生徒とのインタラクションの場を設けながら指導していきたい。

(2) 言語材料について

本課では、一般動詞の用法（肯定文、疑問文、否定文）および疑問詞 when の用法について学習する。動作を具体的に表現できる一般動詞を学ぶことで、日常生活での基本的な行動について表現することができるようになる。一方で、それらを文中で使用するには日本語とは異なる語順で使用することが求められる。疑問文については、基本的に尋ねるべき相手がいてこそ成り立つものであり、自分からの一方的な情報の伝達だけではなく、他者との双方向の言葉のやり取りを行う場面において欠かせないものである。その際、尋ねられた質問に対してははっきりと自己の考えを表現することで、初めてコミュニケーションが成立する。他者とお互いの考えや情報を伝え合うという言葉のもつ本質的な役割の重要性を考えさせるとともに、仲間と共に協力しながら積極的に言語活動に取り組むことができるように指導していきたい。

(3) 学校研究とのかかわりについて

英語科では、「主体的・対話的で深い学び」を進める中で、生徒一人一人の挑戦心を育むことで資質・能力の育成を図ることができるよう、以下の二つの手立てによって授業実践を進めている。

【手立て1】について、相手意識を持った英語による情報交換を進められるよう指導や支援を行っている。自分しか知り得ない情報を他者に伝える際、相手の理解度を確認しながら、使用する表現や言語、また伝達内容を工夫する必要がある。テーマ会話活動や課題解決型の活動などを取り入れる中で、生徒同士での英語でのやり取りから生徒が粘り強く取り組めるよう、継続的な指導を積み重ねている。

【手立て2】について、生徒が自ら課題を捉え、生徒自身が現状と目標との差を理解することが必要であり、各授業や活動における振り返りが重要となる。例えば、他者の考えを聞き、相互評価を行う活動においても、適切な評価基準を設定しながら、仲間への振り返りを行わせる必要がある。その過程で、自身の意見やパフォーマンスと比較をさせることで、自己の課題もより明確になり、学習への見通しや挑戦心を持つことに繋がるような工夫を行っている。

本課ではまとめの活動として、テーマに沿って自分の考えや意見を表現し、それに関する問答を行い、双方向の言葉のコミュニケーションを図る場面を設定する。聞き手が理解しやすいような内容、伝え方だけではなく、効果的な質問・応答の仕方についても目を向けさせ、考えさせたい。

3 生徒の実態

男子 17 名，女子 18 名で，男女の分け隔てなく様々な場面で互いに協力し，取り組むことのできる活気あふれる学級である。特に「聞くこと」や「話すこと」における活動の場面では，既習の事項を用いて自分の意見を相手に伝えるように工夫して伝達しようとしたり，相手からの意見を主体的に受容しようとしたりする光景が見られている。加えて，小学校での外国語および外国語活動の経験からも，使ったことのある英語表現をもとに，自分の欲しい情報を聞き出そうとする場面も見られるようになってきた。一方，こうした活動に自信をもち，取り組むことのできない生徒も少なからずいる現状がある。基礎的・基本的な文のつくり方や用法を確認することや，十分な練習を行った後に活用を図ることや，適宜教師からのフィードバックを加えることなど，生徒をよく観察しながら段階を踏んだ授業展開を行い授業の改善を図る。また活動形態をペアやグループなど，生徒同士で学び，支援できる環境を整え，全員がその授業 1 時間で「英語で自分の気持ちを表現し，相手に伝えることができるようになった」と実感できる支援を行いたい。

4 単元の目標

適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で表すことができる。

- ・「一般動詞の用法（肯定文，疑問文，否定文）」や「疑問詞 when」の特徴やきまりに関する事項を理解し，使用する技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。〈思考力，判断力，表現力等〉
- ・他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。〈学びに向かう力，人間性等〉

5 単元の評価規準

（本単元における「話すこと [発表]」については，目標に向けての指導は行いが，本単元内で記録に残す評価は行わない）

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------------|---|---|--|
| 聞くこと (聞) | <知識> ①「一般動詞の用法（肯定文，疑問文，否定文）」や「疑問詞 when」の特徴やきまりを理解している。 <技能> ②「一般動詞の用法（肯定文，疑問文，否定文）」や「疑問詞 when」の理解をもとに自身の好きなことや考えていることについて聞きとる技能を身に付けている。 | | |
| 読むこと (読) | <知識> ①「一般動詞の用法（肯定文，疑問文，否定文）」や「疑問詞 when」の意味や働きを理解している。 <技能> ②「一般動詞の用法（肯定文，疑問文，否定文）」や「疑問詞 when」の理解をもとに睡眠の大切さについて書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。 | | |
| 話すこと [やり取り] (や) | | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTと伝え合っている。 | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに伝え合おうとしている。 |
| 書くこと (書) | | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自身の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書いている。 | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分の好きなことや考えていることについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書こうとしている。 |

6 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

| 時 | ◆ねらい ○活動 | 評 価 | | |
|---------|--|-----|-------|--|
| | | 知・技 | 思・判・表 | 態 |
| | ◆本単元で理解する内容や身に付ける技能を知る。 ◆「一般動詞（肯定文）」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、他者に自身の好きなことや普段行うことについて伝える活動を通して、事実を整理し、「一般動詞の用法（肯定文）」の用法を活用しながら英語で話をする。 | | | |
| 1 | ○真央とダニエル、エミリーとの趣味に関する対話を基に、単元の内容についての理解を深める。 ○「一般動詞（肯定文）」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。 ○自分の好きなことについて、「一般動詞（肯定文）」などを活用して、事実を話す。 | | | |
| 2 | ◆教科書本文（Think 1）を聞いたり読んだりして内容を理解し、関連する内容について自分の考えを表現する。 ○「一般動詞（肯定文）」の用法が用いられた教科書本文の内容を理解する。 ○教科書本文の内容やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。 | | | |
| 3 | ◆「一般動詞（疑問文、否定文）」および「疑問詞 when」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、普段自分が行っていることや相手が行っている活動についての英語での情報交換を通して、事実を整理し、「一般動詞（疑問文、否定文）」および「疑問詞 when」の用法を活用しながら英語で話をする。 ○「一般動詞（疑問文、否定文）」および「疑問詞 when」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。 ○普段自分が行っていることや相手が行っている活動についての英語での情報交換を通して、「一般動詞（疑問文、否定文）」および「疑問詞 when」の用法などを活用して、事実を話す。 | | | |
| 4 | ◆教科書本文（Think 2）を聞いたり読んだりして内容を理解し、関連する内容について自分の考えを表現する。 ○「一般動詞（疑問文、否定文）」および「疑問詞 when」の用法が用いられた教科書本文の内容を理解する。 ○教科書本文の内容やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。 | | | |
| 5 本時 | ◆適切な表現を選択し、論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう、自分の好きなことや考えていることについて、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いて対話を継続して伝え合う。 ○教科書本文の内容を活用し、自分の好きなことや考えていることについて、考え、他者と意見交換する。 ○他者との英語での意見交換を基に、自分の意見を、英文を用いて書き表す。 | | 書 | ○ ◎自分の好きなことや考えていることについて、必要なことについて、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いて対話を継続して伝え合っている。＜活動観察及びワークシート分析＞ |
| 6 | ◆適切な表現を選択し、論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう、自身の好きなことや考えていることについて、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で表す。 ○他者との英語での意見交換や教科書本文の内容を活用し、自身の好きなことや考えていることについて、自分の考えを形成、整理、再構築し、英文で書き表す。 | | 書 | ○ ◎自身の好きなことや考えていることについて、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある英文を書いている。＜ワークシート分析＞ |
| 後日 | ・パフォーマンステスト（ALTとのやり取り） ・ペーパーテスト | ○ | ○ | ○ |

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

- 適切な表現を選択し、論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう、自身の好きなことや考えていることについて、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いて対話を継続して伝え合うことができる。

(2) 教 具

- ・コンピュータ ・プロジェクター ・記録装置（ICレコーダーまたはタブレット PC）
- ・ワークシート

(3) 展 開 (5/6)

| 過程 | 学習活動・学習内容《形態》 | ・指導上の留意点 ○評価 ☆学校研究とのかかわり |
|-----------|---|--|
| 復習 4分 | 1 ウォームアップ (1) あいさつ (2) 歌“A Whole New World” 《一斉》 | <ul style="list-style-type: none"> ・発音とリズムを意識して練習をさせる。 ・音声面を中心に、歌詞を基に、フィードバックを行う。 |
| 導入 8分 | 2 会話場面をもとにした英会話活動 (1) 場面・状況確認 ALTの先生と英会話ができる時間がやってくる。あるテーマをもとに、またあなたと話したいと思ってもらえるような英会話を行うためにどうすればいいか考え、即興での英会話活動で実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆【手立て1】「挑戦心を引き出す指導の工夫」 ・動画をもとに、目的を捉えさせ、ALTと英語で会話するという、自分自身のことを相手に伝えること、テーマを基に話を進める中で、もっと相手のことを知りたいと思ってもらえるようにするためにどうすればよいかについて、様々な視点から生徒に投げかけ、どのように英会話を進行するかについて意識を向けさせる。 |
| 展開 32分 | <p>(2) “Chatting in Triangle Exercise! 1st Round” 《グループ》</p> <p>①活動のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《活動のねらい》“Chatting in Triangle Exercise”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の流れが自然になるように、1分30秒間英語でペアの相手と話し続けよう。 </div> <p>②活動の手順と評価基準を確認する。</p> <p>③3人組を作り、役割分担を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Speaker（話者：2名） ・Observer（観察者（評価者）：1名） <p>④観察者の生徒は机上のトピックカードを引き、話者はそのテーマに基づき、会話活動を行う。</p> <p>⑤役割を交代しながら活動を行う。</p> <p>(3) 生徒によるPresentation 《個人》</p> <p>(4) 教師によるフィードバック</p> <p>(5) “Chatting in Triangle Exercise! 2nd Round” 《グループ》</p> <p>(6) 生徒によるPresentation</p> <p>(7) 教師によるフィードバック</p> <p>(8) “Chatting with Your Partner” 《ペア》 「会話をもとに、自分が話したい話題で1分30秒、隣の仲間に英語で、口頭にて伝えてみよう！」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・課題やねらいをわかりやすく提示する。 ・適宜、生徒とのインタラクションを行い、具体的な場面と共に評価基準についての確認をさせる。 ☆【手立て2】「個別最適な学びの工夫」 ・机間指導を適宜行い、生徒個々の理解度を把握することや活動の取組への指導を行う。 ・記録装置を使いながら活動を記録させ、振り返りの時間に活用させる。 ・内容面で優れているペアに発表を促し、全体で共有し、どの点が良いか、音声・内容の両側面から考えさせる。 ・よりよい会話活動にするための工夫や音声・内容の両側面に関するフィードバックを行い、生徒個々の取組について振り返らせる。 ・(2), (4)を踏まえ、別のグループで再度活動を行わせる。 ・前回のトピックカードを引いた場合、引き直しをさせ、異なるトピックカードで活動をさせる。 ・記録装置を活用しながら、生徒の発話等について記録し、自分たちで活動を振り返らせる。 ・内容面で優れているペアに発表を促し、全体で共有するとともに、どの点が良いか、音声・内容の両側面から考えさせる。 ・よりよい会話活動にするための工夫や音声・内容の両側面に関するフィードバックを行う。 ・“Chatting in Triangle Exercise!”を通して、取り組みから学んだ経験を基に、自分が実際に話を進めていきたい話をペアの生徒に英語で話をさせ、学びの変容を自覚させる。 ◎自身の好きなことや考えていることについて、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いて対話を継続して伝え合っている。＜活動観察及びワークシート分析＞ |
| 整理 6分 | 3 まとめ 《一斉・個人》 “Writing Your Idea” 「実際に話したい内容を英文で書いてまとめてみよう！」 4 あいさつ | <ul style="list-style-type: none"> ☆【手立て2】「個別最適な学びの工夫」 ・当日自分が英語で伝えたいことを英文として書き表すことで自身の成長や変容を自覚させる。 ・内容のまとめと次時の連絡をする。 |